

平成 22 年度 モンゴル国家統計局支援事業の報告

当財団は、モンゴル国家統計局（以下、MNSO）との間で政府統計の分野において交流・協力を行うため、2005年9月に3ヶ年の協力協定を締結した（協定締結の経緯と詳細については、本誌2005年12月号特集「モンゴル国家統計局支援」を参照されたい）。

さらに、2009年6月には、期間の延長等を定めた新協定を締結し、両機関間の更なる交流・協力を約束した。この協定の要旨は、以下のとおりである。

- ①毎年1週間程度、MNSO から職員を招聘し国内研修を行うこと
- ②毎年1週間程度、当財団から視察団をモンゴルに派遣し、MNSO 側の要望に沿ったテーマによるセミナーの開催（地方職員がより多く参加できるように、地方開催も検討する）と意見交換等を行うこと
- ③政府統計の分野の進展に関する情報交換を随時行うこと
- ④協力を広げるため、JICA などの政府間プロジェクトの実現を目指すよう努力すること

なお、本事業は政府間プロジェクト等が実現すれば、その時点で発展的に解消することとしている。

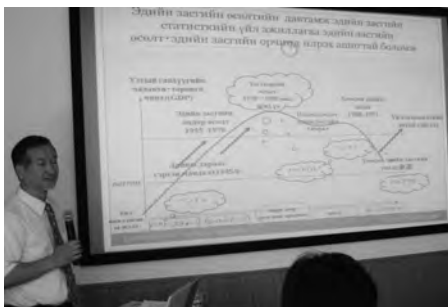
本年度は、2010年6～7月に上記②に基づくモンゴル統計セミナーの開催、2011年1月に上記①に基づくMNSO 職員の招聘・国内研修を実施した。

第 5 回モンゴル統計セミナー開催等

モンゴル統計セミナーの開催、視察及び意見交換のため、2010年6月26日～7月3日の1週間、当財団の視察団がモンゴルを訪れた。視察団は、当財団の伊藤理事長、杉浦理事、木原理事及び小西主任研究員に、さらに、明治大学から藤江経営学部教授を迎え、5名で構成した。

今回の統計セミナーは、7月1～2日の2日間、ウランバートル市のMNSO 庁舎内において行われた。講義のテーマは、MNSO のマクロ経済統計部職員を対象とした「経済統計」とともに、人口社会統計部及び情報処理技術部職員を対象とした「統計 GIS」の2本で、計約40名が参加した。

統計セミナーの様子（藤江教授）



統計セミナーの内容

(I) 経済統計（講師：藤江 明治大学教授）

1. 経済統計とは何か
2. 経済統計の体系
3. 主要統計
4. 経済トピック「原油高の影響分析 / 政府支出の GDP 比率 / 日本の経済成長率」

国民経済計算(SNA)、マクロ経済関連データ、景気統計、2012年経済センサスの概要についても解説を行った。

(II) 統計 GIS（講師：小西 当財団主任研究員）

1. 統計 GIS とは（国連ハンドブック）
2. 調査区レベルデータベースの作成
3. GIS に関する基礎知識
4. GPS を利用した情報の補完
5. センサス業務へのデータベースの利用
6. センサス結果、成果品、サービスの普及のための地理情報データベース
7. 日本における事例

統計と GIS に関する技術の基本的な部分について、国連ハンドブックに基づき解説するとともに、日本における統計 GIS の利用例につ

いても紹介した。

視察団は、このほか、MNSOにおいてモンゴルの統計事情視察、意見交換を行うとともに、在蒙日本国大使を表敬し、本事業の実施及び延長に至る経緯と事業概況説明等を行った。また、モンゴル国立大学の訪問を行った。これは、昨年度の訪問で仲介した明治大学とモンゴル国立大学との交流協定に立ち会うため、明治大学勝副学長（森永・藤江教授）とモンゴル国立大学メンドバイヤル総長との間で協定が結ばれた。

モンゴル滞在スケジュール

6/26 (土)	出発ーウランバートル到着
6/27 (日)	テレルジ国立公園視察
6/28 (月)	MNSO 幹部との打合せ
	メンドサイハン MNSO 局長挨拶、事業概況説明
	本協力事業に関する議論及び意見交換
	MNSO、当財団間のマイクロデータ交換に関する憲章への調印
	当財団主催夕食会
6/29 (火)	モンゴル国立大学メンドバイヤル総長表敬
	城所 在モンゴル日本国特命全権大使表敬
	メンドサイハン MNSO 局長主催夕食会
6/30 (水)	杉浦理事、木原理事帰国
7/1 (木)	統計セミナー (I)
	「経済統計」(講師：藤江 明治大学教授)
7/2 (金)	統計セミナー (II)
	「統計 GIS」(講師：小西 主任研究員)
7/3 (土)	帰国

MNSO 副局長及び地方統計部長来日、国内統計視察、意見交換等

モンゴルよりエルデネスレーン (Erdenesuren Baatar) MNSO 副局長、オユンマーム (Oyunmaam Erendorig) 南ゴビ県統計部長の2名を招聘し、2011年1月17～24日の1週間、国内統計視察、意見交換等を実施した。

当財団においては、業務概況の説明のほか、「統計の電子媒体による提供及び関連研究活動

について」、「センサスと GIS」の講義を行った。両氏は、新統計法の改正点(特に二次利用制度)、統計データ提供の仕組み、当財団の開発した GIS ソフト「G-Census」のデモンストレーション等に高い関心を示した。

また、総務省統計局、同政策統括官、(株)統計センター、統計資料館を訪問し、視察及び意見交換等を行った。

総務省では、統計局 川崎局長、政策統括官室 池川政策統括官、木村国際統計管理官を表敬するとともに、経済統計を中心とした我が国の統計制度についての説明を受けた。(株)統計センターでは、戸谷理事長を表敬するとともに、統計調査の集計の流れについて、家計調査を例に、PC のデモンストレーションを交えながら説明を受けた。また、統計資料館においては、日本の統計の歴史、古資料、古い集計機器等について、解説を受けながら展示物を興味深く見て回った。

さらに、MNSO では、国家経済の一翼を担うべく、現在開発途上にある鉱業の実態を知るための統計整備を計画しており、その参考として日本における鉱業のデータ収集等に関するヒアリングを行いたいとの要望があったため、経済産業省経済産業政策局調査統計部を訪問し、

経済産業省経済産業政策局調査統計部の方々と
(左から2人目が副局長、中央が南ゴビ県部長)



日本の鉱業統計についての概要説明を受けるとともに、意見交換を行った。MNSO は、日本に倣って調査の質を高めるほか、鉱業統計の年鑑を作成するなど、鉱業統計の整備を行っていたこととのであった。

また、エルデネスレーン 副局長は、各省訪問や当財団伊藤理事長との意見交換において、鉱物統計に関して、当財団や総務省、経済産業省の協力を得て、情報収集を含む情報センターを設立したい旨述べ、これは日本の経済戦略にも役立つだろうとの考えを表明した。

このほか、国連アジア太平洋統計研修所を訪れ、ダバスレーン 所長、渡辺副所長を表敬した。所長は元 MNSO 局長ということもあり、視察団は毎年訪問し、人材育成についての意見交換を行っている。

エルデネスレーン 副局長は、経済学を専門とし、教育分野で、大学教授や学長として長年活躍された後、近年は、モンゴル議会の最高顧問を務め、2009 年に MNSO 副局長に就任された。各所訪問の際、常に iPad でメモを取りながら、ダイナミックに話を進める迫力と情熱の一方で、ユーモアや優しさも併せ持つ人物であった。

オウンマーム 統計部長の住む南ゴビ県は、モンゴル南部に位置し、ゴビ砂漠の広がる面積 16.5 万 km²、人口 4.8 万人の県である。

ゴビと聞くとサハラのような砂漠のイメージが先行するが、「ゴビ」とはモンゴル語で「まばらな短い草が生えている土地」という意であり、一面砂という風景とは異なるということである。同県は、銅の埋蔵量世界第 3 位のオクトルゴイという銅・金鉱山など、豊富な鉱物資源に恵まれており、経済的にも重要な地域である。

日本滞在スケジュール

1/17 (月)	来日、歓迎会
1/18 (火)	当財団伊藤理事長、久布白専務理事表敬
	当財団にて事業概況説明 当財団にて講義「統計の電子媒体による提供及び関連研究活動について」
1/19 (水)	総務省統計局訪問 (川崎局長表敬、意見交換)
	総務省政策統括官室訪問 (池川政策統括官、木村国際統計管理官表敬、統計制度・経済統計概要説明)
	国統計センター訪問 (戸谷理事長表敬、調査集計関係説明)
	統計資料館視察 小玉会長主催夕食会
1/20 (木)	当財団にて講義「国勢調査と GIS」
	経済産業省経済産業政策局調査統計部訪問 (鉱業統計の概要説明、意見交換)
	送別会 (JICA カンボジア政府統計能力向上計画 本邦研修員同席) MNSO 副局長・伊藤理事長 意見交換
1/21 (金)	国連アジア太平洋統計研修所訪問 (ダバスレーン 所長、渡辺副所長表敬) 観光 (葛西臨海公園、葛西臨海水族園)
1/22 (土)	都内観光 (両国)
1/23 (日)	終日自由行動
1/24 (月)	帰国

政府は、同県の大鉱床の開発政策を立てている。

モンゴルのこの時期は、-20℃という極寒であるが、セントラルヒーティングが行き届き、室内は十分暖かい。そのため、お 2 人は日本の公共施設内が意外に寒いことに驚いていたようだった。一方で、冬は石炭による暖房で大気汚染のひどいウランバートルにくらべ、東京の空気の方がきれいだと感じたそうである。また、日本食は、隣国の韓国や中国等と違って辛くなく優しい味なので好みであるとのことと、親子丼やちゃんこ鍋の出汁や薄い塩味の料理を大変気に入っておられた。

本事業においては、モンゴルでの統計セミナー、来日研修とも、日本の関係諸機関に多大なご協力を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。